

佐賀県研究成果情報（作成 2024 年 3 月）

【情報名】パン用硬質小麦「さちかおり」の収穫適期の判断基準

【要約】「さちかおり」の収穫適期は、出穂期以降の積算気温は 950～1,050℃、出穂後日数は 52～56 日のときである。このとき、子実水分は 16～31%程度、子実は爪で潰れない。

【キーワード】さちかおり、収穫適期、積算気温

【担当】佐賀県農業試験研究センター・作物部・作物栽培研究担当

【連絡先】TEL 0952-45-8807・メールアドレス nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

【分類】普及

【部会名】作物

【専門】麦類

【背景・ねらい】

パン用硬質小麦「さちかおり」は、フランスパンに向く品種として令和 2 年度から本県の認定品種に採用されている。本品種の穂発芽性は“中”であるものの、早刈りや遅刈りによる収量及び子実外観品質の低下を避けるため、現場では収穫適期の判断基準が求められている。そこで、「さちかおり」の収穫適期を明らかにすることを目指した。

【成果の内容】

1. コンバイン収穫が可能な子実水分 30%を下回るのは出穂期以降の積算気温が 950℃程度であった(表 1、図 2)。また、出穂期以降の積算気温が 950℃を超えると千粒重は増加しなくなった(図 1)。
2. 積算気温 1,100℃、出穂後 60 日以降の穂が湾曲する時期では、水分が低下し過ぎたり、子実外観品質が低下したりすることがある(表 1、表 2)。
3. 「さちかおり」の収穫適期は、出穂期以降の積算気温が 950～1,050℃、登熟日数は 52～56 日程度、子実水分は 16～31%程度である(表 1、図 2)。
4. 収穫適期の目安は、遅れ穂を除いたほとんどの穂の青みが抜け、傾穂していないか、わずかに傾穂し、子実を爪で押しても粒が潰れず、わずかに跡が付く時期である(表 1、表 2)。

【成果の活用面・留意点】

1. パン用硬質小麦「さちかおり」の収穫適期は、出穂期後日数と積算気温から推定が可能で、穂外観、子実硬さ及び子実水分から判断できる。
なお、多雨等により、根が障害を受けるなどして、いわゆる「枯れ熟れ」となった年は、積算気温が 950℃に至る前に子実水分が 30%を下回る可能性があるため、圃場検見などを行い、総合的に収穫適期を把握する。
2. 播種期は 11 月下旬、施肥について窒素成分で 2021 年産は基肥 6 kg/10a、追肥 I 3kg/10a、追肥 II 3kg/10a、穂揃期追肥 6kg/10a、2022 年及び 2023 年産は基肥 6 kg/10a、追肥 I 2kg/10a、追肥 II 4kg/10a、穂揃期追肥 6kg/10a を施用して栽培し、精麦重 500～650kg/10a 時の成績である。
3. 共同乾燥施設においては、荷受け計画と併せて、本情報で示した収穫適期の判断基準を参考に収穫する。

[具体的なデータ]

表 1 成熟期前後における子実特性及び穂外観の推移

年産	刈取日	積算気温(°C)	登熟日数(日)	精麦重(kg/10a)	千粒重(g)	子実水分(%)	子実外観品質	穂の外観や子実硬さ			
								傾き	色	子実硬さ(爪で押したとき)	他
2020	5月18日	838	47	544	30.3	45.0	7.0	-	黄緑色	-	-
	5月21日	900	50	598	32.8	44.1	6.7	無し	-	潰れ	-
	5月25日	981	54	651	34.0	27.1	6.0	僅か	-	僅かに跡が付く	-
	5月28日	1,039	57	652	38.1	22.4	5.0	僅か	-	殆ど跡が付かない	-
	5月31日	1,108	60	631	36.5	7.8	4.0	-	-	殆ど跡が付かない	-
2022	5月20日	829	44	620	38.1	68.5	2.0	無し	黄化50%	潰れ	-
	5月23日	896	47	667	39.5	36.8	2.0	無し	黄化70%	潰れ	-
	5月26日	967	50	562	39.9	23.2	2.0	無し	黄化90%	僅かに跡が付く	成熟期
	5月31日	1,080	55	603	40.7	15.0	2.0	有り	黒ずみ	殆ど跡が付かない	-
	5月18日	827	47	518	35.3	40.4	2.0	-	-	-	-
2023	5月22日	910	51	550	36.5	27.4	2.0	約5°	黄化90%	跡が付く	-
	5月25日	971	54	501	36.2	15.0	2.0	-	-	-	成熟期
	5月29日	1,070	58	590	37.1	12.3	2.0	-	-	-	-
	6月1日	1,139	61	424	36.9	-	2.5	約30°	-	-	-

※子実重・千粒重は水分12.5%換算値、篩目2.0mm

※子実外観品質は民間検査員により、1等上=1~規格外下=9の9段階評価

※耕種概要：播種日は3ヵ年共通で11/25、施肥量(Nkg/10a)については、2021年産は6-3-3-6、2022及び2023年産は6-2-4-6

※子実水分欄における斜体・太字はコンバイン収穫には不適と思われる高水分及び低水分の値

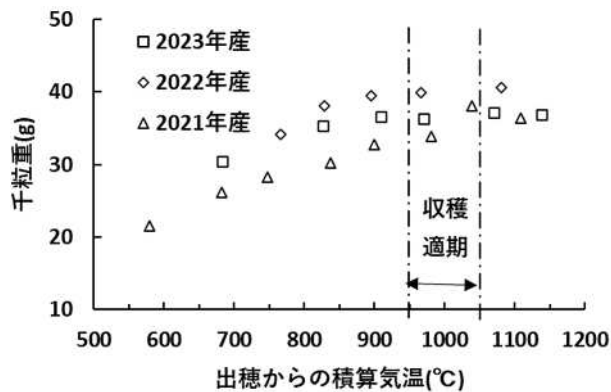


図 1 成熟期前後における千粒重の推移

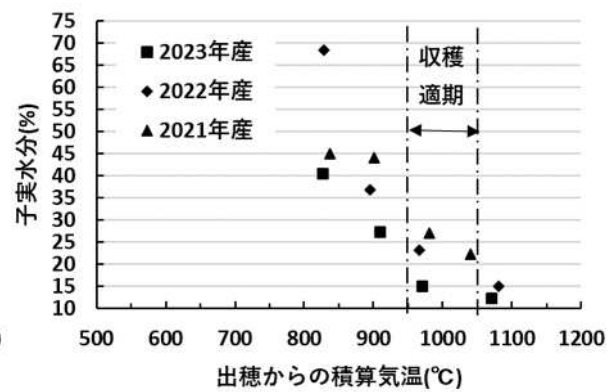






図 2 成熟期前後における子実水分の推移

表 2 成熟期前後における穂外観の推移 (収穫適期)

積算気温(°C)	827	971	1115	1139
登熟日数(日)	47	54	60	61
外観品質	1等中	1等中	-	1等下
穂外観				

[その他]

研究課題名：需要の動向に即した水稻・麦類・大豆新品種系統の作柄安定対策試験

予算区分：県単

研究期間：2020~2023 年度

研究担当者：田村直樹、森敬亮、崎山将太、居石奈々、岩城雄飛